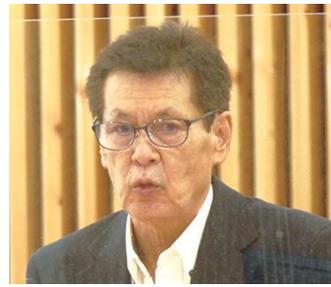


## 地区要望

### 振り分け方や各課の対応は 優先順位を付け実施



よしおまさき 議員  
吉尾昌樹

があり、その対応が大変だと思うが、要望の振り分け方やその後の各課の対応について問う。

#### 答 土居総務課長

近年の地区要望総数は500件を超えており、各地区の環境改善に関するものが大半を占めているが、道路や河川、水路

など公共物の修繕や防災設備、交通安全、防犯施設等の要望が多い。

大方地域は総務課で、佐賀地域は地域住民課でとりまとめをしている。

必要性や緊急性を検討したうえで、各担当課で回答書を作成し、それぞれまとめて各地区に返している。

要望事業実施は、現地精査による状況判断後、各課で優先順位をつけて予算の範囲内で実施している。

問 町には、毎年各地区から500件以上の要望



落石が心配される危険な通学路（田野浦地区）

## コロナ後遺症

### 発症時の対応は

### 相談を受け 医療機関へつなぐ

コロナの後遺症でいろいろな症状が発症した場合の本町や他の市町村の対応や取組みを問う。

#### 答 佐田健康福祉課長

新型コロナウイルス感染症に感染し、治療や療養が終わっても、一部の人が後遺症が長引くことが分かっている。

代表的な後遺症としては、倦怠感や筋肉痛、咳、息切れ、脱毛、記憶障害、集中力低下、嗅覚味覚障害、などたくさん症状がある。人によって、様々な症状があるので、心配な場合は、かかりつけ医など医療機関に相談することがいいと考える。

#### 答 松本町長

課長の答弁以外には、やはりワクチン接種でこれが後遺症を残さない大きな手段であると思う。それを積極的に接種していく、また、国、県の基準、他市町村の取り組みと足並みをそろえて対応していくことになる。



ワクチン接種の一コマ

問 最近はずいぶん減少しているが、7月ごろから感染者の増加に伴って後遺症に苦しむ人たちが増えているとテレビやネットをよく言われている。

倦怠感の症状は年代での差は大きくなく、どの年代でも起きうる症状で10歳以下の子どもは倦怠感より動悸や腹痛の方が多く、主婦など長い人は2年以上そういった後遺症に悩まされている人もいるとのことだ。